



知りたい! 秋田 の とっておき

05

〈秋田市〉鈴木絵美 株式会社こめたび 代表取締役社長

秋田市山王3-1-1県庁第2庁舎3階創業支援室内
TEL: 018-896-1661 <http://kometabi.com/>

お米と農産物で秋田と都会を橋渡し 秋田を体感する旅行プランも企画

「秋田の良さをもっと全国に発信したい」。そんな熱い思いを胸に30代の女性が一念発起。県産米や農産物のインターネット販売や、秋田の魅力を感じてくれる旅行を企画する株式会社「こめたび」を設立。事務所開設にあたり、県に事業支援計画を申請。県庁第2庁舎3階にある創業支援室への入居支援を受け、日々精力的に活動を続けている。

代表の鈴木絵美さんは秋田市新屋生まれ。以前は職業能力開発の講師として、企業や再就職を目指す人々にパソコン関連の指導を行っていた。受講者の能力を引き出すことが地元企業の成長に貢献し、秋田県のレベルアップに繋がることを喜びとしていたが、一方で、大好きな秋田の能力を十分に生かしてあげていない実情に触れるにつれ、心の奥底に「より直接的に秋田のためになることを手掛けてみたい」と思うようになる。

一人密かに抱いていた構想であったのだが、平成18年3月、親しい仲間との会合の席で、その思いを披露したところ構想の実現が現実的なものになった。鈴木さんの熱い思いを支援する人たちの輪も広がり、その後、支援者の紹介で知り合った神戸市で企業の販売促進などのデザイン事務所を営む星加ルリコさんも、主に首都圏と京阪神地区の販売を担当する副社長として参加することが決定。「こめたび」が誕生することとなる。

平成18年度秋田県き酒コンテストチャンピオンという肩書きを持つものの、農業には素人同然だった鈴木さんがなぜ米を選んだのか。そこには能力開発のエキスパートならではの視点があった。

「秋田でもっとも多くの方々が関わっている産業が農業です。しかし、農家の方々の努力や苦労が正当に評価されていないのが現状。せっかく、おいしい米を作っても、県外での評価は私たちが思うほど高くないので

す。事実、首都圏で食べる秋田産の『あきたこまち』はなぜか味が違う。ならば、秋田の素晴らしいものを直接全国の人々に届け、さらには、秋田を訪れて、秋田の米や農産物を育んだ自然、文化、そして、農家の方々の日常生活を見ていただくことと考えました。秋田には秋田県人ですらないすごい人、すごいもの、すごい知恵がたくさんあります。その第一弾として米の販売からスタートしました。

とはいうものの、会社設立に向けての現実想像以上に厳しい日々との連続。まずは協力してくれる生産農家を見つけてのめが、一苦労。知人・仲間の紹介でようやく見つけても会話をするまでがまた大変。農家の方と笑顔を会話ができるまで、足繁く通いつめ互いの信頼関係を高めたい。こうした努力が実り、現在は『こだわりの米』を生産する農家7名と協力。すでに10月20日から毎月1回の発送が始まっており、契約者の反応も上々とのこと。11月には京都で秋田の米を食べるイベントを開催し、大阪に本社があるデパートとの販売契約も締結。来春からは「たび」企画の本格的移動が計画されているなど、秋田を元気にする活動が着々と進行しているのだ。

あきた企業活性化センター 支援事業のお知らせ

創業準備支援室(貸しブース) 新規創業・起業のための準備を支援

創業を志し、準備している方を対象として、ビジネスプランの策定や情報収集のためのデスクワーク用スペースを提供し、(財)あきた企業活性化センターのインキュベーションマネージャーによる創業指導が受けられます。

【創業準備支援室の概要】

所在地 ■秋田市山王三丁目1-1
県庁第2庁舎3階

部屋概要 ■面積約5m²(1ブース)・全8ブース

利用料 ■月額/6,000円

入居期間 ■6ヶ月

※特別な事情があると認められる場合、更に6ヶ月まで延長可

募集方法 ■随時申込み受付中

(財)あきた企業活性化センター
営業統括グループ

秋田市山王三丁目1-1

TEL.018-860-5609

FAX.018-860-5704